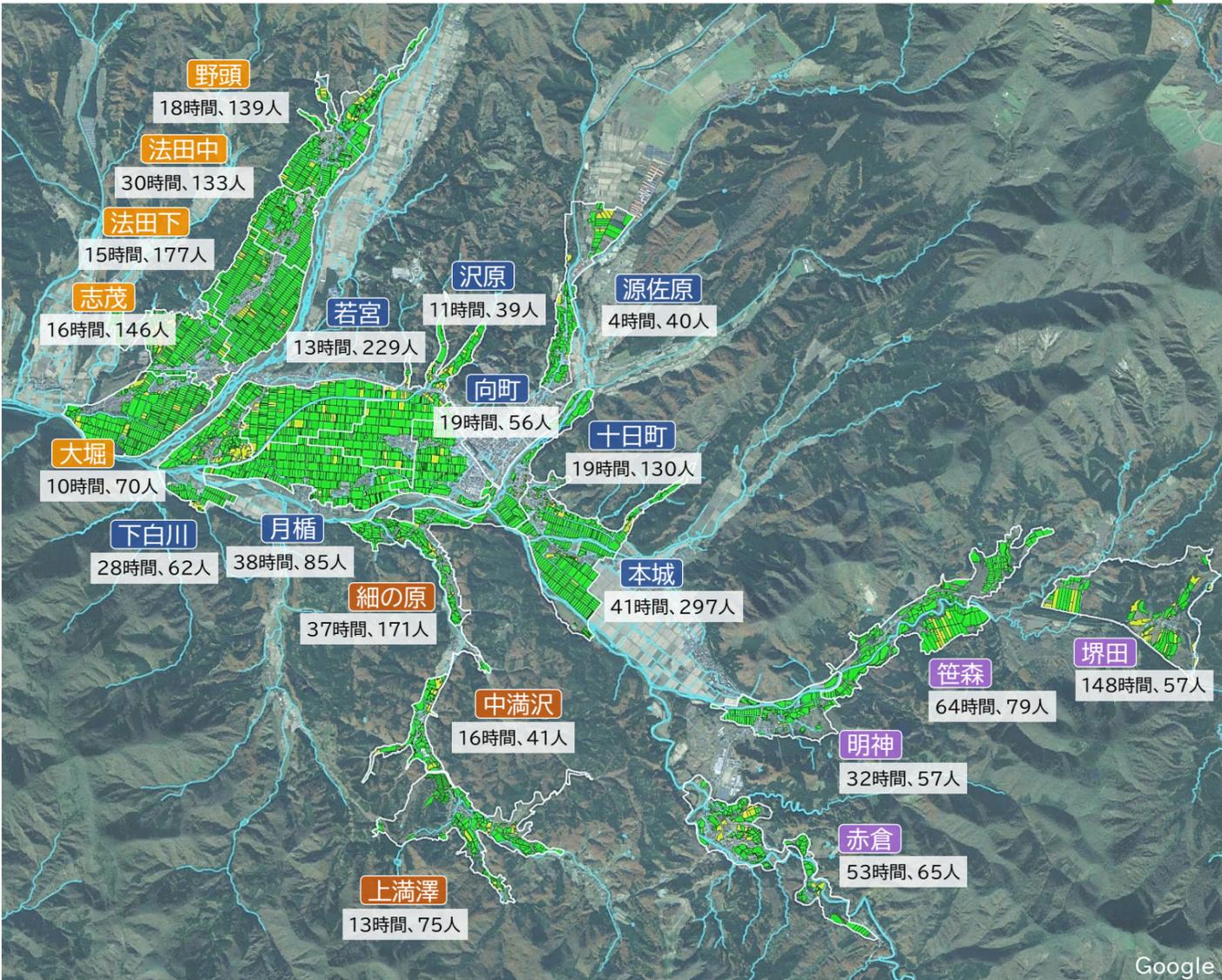


# 令和4年度に共同作業で行った「泥上げ・草刈り」の延時間と延人数

多面的事業では、農地・水路・農道を維持するために、基本的な共同作業として毎年各組織で農業者が中心となり、水路の泥上げと草刈り活動を行っています。  
 しかしながら、年々参加者が少なくなり、その活動の参加者の確保に苦慮しています。  
 では、実際にどれだけ多くの時間と労力をかけて維持活動をしているか見ていただくために、昨年度の各組織の「泥上げ・草刈り」の延時間と延人数をまとめました。



多面的機能支払交付金事業

## 最上町広域協定 活動通信 No.9

本事業のロゴマーク

地域の農業や農村を維持するための国の支援制度「多面的機能支払交付金事業」を進めるために、『最上町広域協定』が発足し4年半が経過しました。20地区の組織体制で活動しています。

今回の活動通信は、減少著しい農業者のみの活動では困難となりつつある水路の泥上げや、水路・農道・畦畔の草刈り等の活動に、**農業者以外の方々の活動参加**をお願いする内容と、地域が一体となって、地域づくりとあわせて、本事業の活動を行っている**細の原地区**を紹介します。

### 活動組織の紹介「細の原地区農地・水・環境保全会」

● 活動の経緯 平成19年4月設立

平成19年度に集落の農業後継者全員で保全会を設立。農業施設の維持管理だけでなく、**集落活性化のための主役となる組織としてスタート**している。設立時から将来の集落運営の継承を目的としていたことが、課題に向き合い協働で地域づくりを行っている現在の細の原集落をつくっている。

● 本事業の主な活動内容

- 地域内の水路はほとんどが土側溝であり、防火・生活用水を兼ねている非常に大切な施設であることから、**集落総参加の共同作業体制**で泥上げや草刈りを行っている。
- 豪雨出水の度に取水が困難となり、毎回、重機により取水を確保している。
- 毎年、県道脇に本事業を活用した花壇づくりを行い、憩いの場をつくっている。
- 高齢化と担い手不足がすすみ、農地維持や営農が困難となっている。本事業役員を中心に、適正な**農地集約の方向性**を探るべく多くの話し合いの場を持っている。

● 今後の展開

当地区は以前から世代間交流会や歴史文化活動（歴史財産・地域資源マップの作製。写真参照）、環境美化活動などを積極的に取り組む「つながり」が深い集落です。

今後も事業を通して集落ぐるみで農地・水の保全活動や農業生産活動はもとより、**集落活性化に向けた取組**なども保全会役員が中心になって進めていきたいと思っております。

花いっぱい環境整備

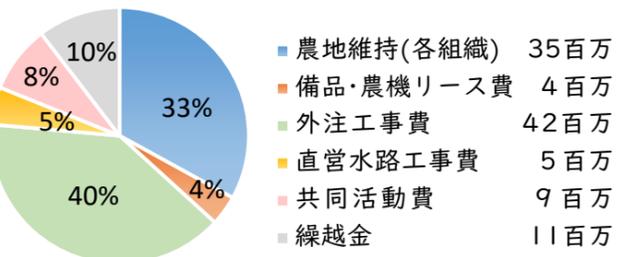


集落総参加の世代交流会



## 令和4年度の決算と今年度の計画

令和4年度の支出額 決算額：106百万円



- ※ 共同活動費内訳
- ① 会議・研修時日当 0.2百万円
  - ② 運営委員会役員報酬、事務局人件費 7.1百万円
  - ③ 傷害保険、通信料、消耗品、印刷費、啓発資料等 1.3百万円

令和5年度の活動概要 予算額：96百万円

- ① 農地維持：各組織で行う草刈りや泥上げ 39百万円  
(農地維持予算で支出する工事費含む)
- ② 農業機械・資材、事務所備品等費用 4百万円
- ③ 水路工事やゲート補修などの外注費等 38百万円
  - 農道の舗装工事(野頭、法田下、志茂)
  - コンクリート側溝への更新工事  
十日町、源佐原、細の原、赤倉、明神
  - 取水ゲートや用水管理ゲートの補修、更新
- ④ 直営施工水路更新工事 5百万円
  - 中満沢、上満澤
- ⑤ 共同活動費(人件費・事務経費等) 10百万円

発行日/令和五年十月一日 発行責任者/最上町広域協定 運営委員会理事長 渡邊英俊

最上町広域協定運営委員会

【満沢1区の歴史財産、地域資源マップ】



【細の原地区 歴史財産、地域資源の詳細】



# 多面的事業の共同活動 水路の泥上げ・草刈り に参加しませんか？

各集落の保全会から、日当や草刈機の借上げ料が支給されます。(最上町広域協定の場合 日当:1,200円/時間 草刈機借上げ料:500円/時間)

農業・農村は、私たちに食料を提供するだけでなく、  
**①洪水を防ぐ、②川の流れを安定させきれいな地下水をつくる、③土砂崩れや土の流出を防ぐ、④美しい風景をつくる、⑤伝統文化を守る、⑥生き物を育てる、⑦身近なところでは、生活用排水の悪臭防止、防火用水、流雪溝利用など、私たちの生活に色々な『めぐみ』をもたらしています。**このめぐみを「**農業・農村の有する多面的機能**」と呼んでいます。  
 この多面的機能は、農業者が中心となり水路の泥上げ、農地・水路・農道の草刈り作業などの共同作業を行うことで維持されています。各集落保全会は、多面的事業交付金を活用して日々保全に努めています。



## 多面的事業 各集落の保全会の役割

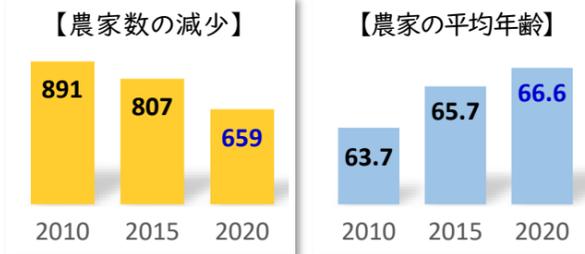
以下のような共同活動を行って、農村の多面的機能を守っています。また、担い手農家が安心して農業に取り組めるように、負担をみんなで補っています。参加者は、農業者に限らず非農業者も参加しています。



## 農業・農村を守るため、どうして農業者以外の協力が必要？

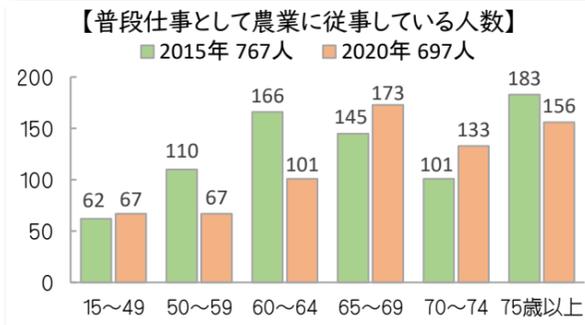
### 農業者の減少と高齢化 ~ 町の2020年統計から ~

農業者の減少と高齢化は深刻な問題です。  
 ● 最上町では、5年前に比べて農業世帯が17.3%の減少  
 ● 農家の平均年齢が0.9歳増加  
 ● 農業に従事している年齢層も65歳以上の割合が増加  
 農業者が減少し高齢化するなかで、水路や農地などの地域資源を適切に保管理することは年々困難となっています。



### 農業後継者、地域農業の担い手不足

農業者の担い手不足も深刻です。  
 ● 後継者を確保していると答えた方は、4人に1人  
 ● 後継者を確保していない農家の耕地面積は、町全体で1,060ha、耕地面積全体の64%  
 ● 離農者から農地を引き受けて耕作している地域の担い手農家も、年々耕作面積が増えることで、日常の水管理や畦畔の草刈り、少人数での春の泥上げと、農地と水路等の管理に苦慮しています。



このままでは、数年後に荒れた農地・管理されず壊れたままの水路や農道が増え、営農が継続できないばかりでなく、最上町の豊かな田園風景が失われます。  
 特に、不耕作地の増加による住宅周りへの熊やイノシシの出没、水路の悪臭、防火用水不足など、生活に密着した影響が大きくなります。  
 今できることは、住民が協力し合って、泥上げや草刈りなどの共同作業を行い、**担い手農家が営農を続けられる状況と、何でも協働しあえる地域**を作り上げることが必要です。



### 地域活動の担い手育成、コミュニケーションの場として

地域農業と同様、集落・地域運営の高齢化、担い手不足も深刻です。  
 ● コロナ禍を経て、地域行事がなくなった。今後も、開催できるかわからない。そもそも、集落内の話し合い自体が少なくなった。→ 話す機会があれば、協働の地域づくりに前進する。  
 ● コロナ禍でも共同作業は実施。この作業で、コミュニケーションが保たれたという集落も。  
 ● 細の原のように、多面事業の役員・構成員=集落運営の担い手ととらえている集落も多い。



## 地域住民が参加できる作業は？

共同作業は、ベテランの農業者と一緒に行います。もしものために、傷害・損害保険に加入しています。共同作業に参加してみたい方は、個人や団体で地域の保全会役員に声掛けして下さい。



### 草刈り作業

農地や水路、農道脇の雑草の草刈り作業。草刈機は持参ですが、保全会で共同草刈り機を用意している保全会もあります。

### 泥上げ作業

水路の水路底にたまった泥やゴミを除去する作業。流れがよくなり、農地や宅地周りに水が行き届きます。毎年、春と秋に行われます。



## 各保全会の今後の取り組みの発展

- 積極的に地域の住民や、町内会・消防団・地元企業等に共同活動の参加の協力をお願いする。
- 「草刈り隊」の設置: 農業者・非農業者を含めて、同じ意識を持った仲間とグループを作ることで機動的な活動ができる。
- 安全作業を行っていただくため、草刈り機の取り扱いなどの講習会を定期的に行う。
- どんな共同作業を行ったかを集落内に広報し、地域住民の理解を深める。
- この事業の活動や「草刈り隊」が、農業面だけでなく、今後の集落運営を支え、集落の活性化を図る組織へと発展

## 共同作業から集落の継承へ ~ 事例紹介: 黒沢地域環境保全会 ~

本保全会は、農業者だけでなく、地域全体の課題解決の手段として、幅広い世代での多面事業を実施しています。この事業の共同活動から、多方面に活動の広がり、人の広がりを実現しています。「草刈り隊」は、本事業を活用して日当と機械借上げ料を支給、「雪かき隊」は、中山間直払事業を活用して日当を支給。併せて、中山間直払事業を活用して災害時等の活用のため公民館にWIFIを設置。

### 取組内容

- 「黒沢草刈り隊」 離農等により担い手農家に集積された農地の草刈りと春の泥上げ 年3~4回の活動 隊員約40名(30~70代) 1/3が非農家
- 「黒沢雪かき隊」 草刈り隊員が冬期間は高齢者等宅や公民館の軒下等の除排雪 令和3年度には延5軒の実績 依頼者の金銭負担なし
- LINEの活用 草刈り隊や集落の役員を中心にLINEグループを結成 約40名加入 草刈り作業や会議の案内、集落活動の情報発信と話し合える場の提供 今後は、情報が即時に伝わることから、災害時や獣の発見に活用



- 誰でも参加でき、誰もができることを基本とした活動を通じて、協働を継承できる環境が整えられた。
- 幅広い世代の参加で、農家と非農家の繋がりができ、農業・農村環境の継承、集落運営の継承に広がっている。